

2026 年 9 月 9 日

FDI 世界歯科会議(FDI WDC) @プラハ 視察出張レポート

日 時 : 2026 年 9 月 4 日～9 月 7 日

場 所 : チェコ共和国 プラハ O2 ユニバース/O2 アリーナ

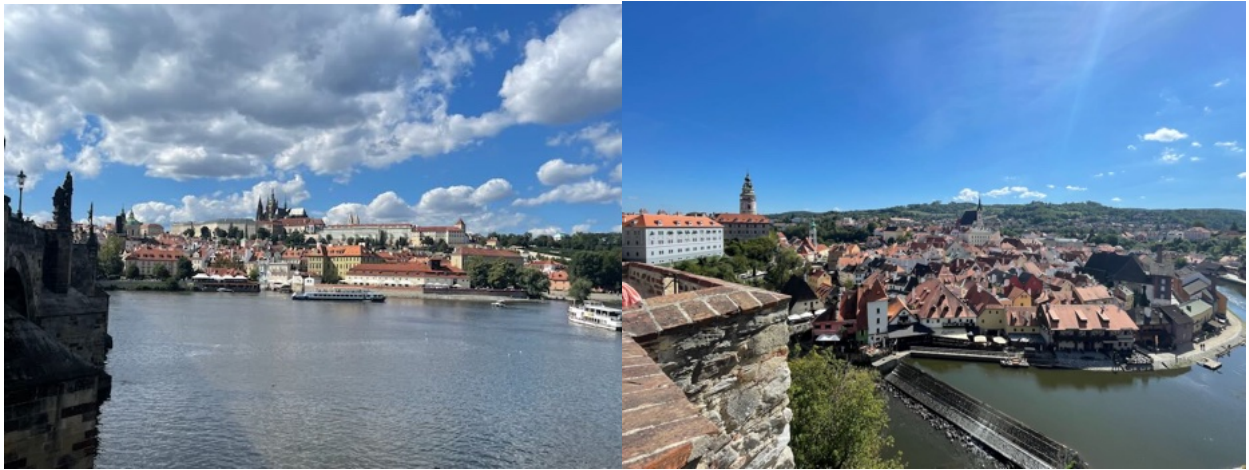
2026 年 9 月 4 日～9 月 7 日に FDI(国際歯科連盟)の世界歯科会議(WDC: World Dental Congress)がチェコ共和国・プラハで開催されました。視察出張を行いましたので、下記概要レポートさせていただきます。



FDI は 1900 年に設立されたスイス・ジュネーブに本部をおく国際歯科連盟で、日本歯科医師会や日本歯科商工協会、ADA をはじめ世界 132 カ国、187 歯科関連団体が参加し、100 万人以上の歯科医師の代表的な組織として、国際的に健康増進政策や継続的教育プログラム、口腔健康推進活動をサポートしております。その WDC は 100 カ国以上から歯科医療従事者、研究者、業界リーダーが集結する世界で最も権威のある歯科分野の国際会議の一つです。

そんな FDI 世界歯科会議は、毎年、世界各国の様々な都市で開催されていますが、今年は、チェコ共和国（以下、チェコ）の首都プラハで開催されました。

チェコは 78,866 km²の国土（日本の約 1/5）に、1,091 万人の人口という中欧の国で、主要産業は自動車や機械、化学、エレクトロニクスなどの製造業（第二次産業）が多く、2025 年の一人当たり名目 GDP(IMF 統計)は日本が世界 38 位の 35,973 ドルに対し、チェコが世界 39 位の 35,678 ドルと、日本と似た特徴の側面も持つ国でもあります。



「おとぎの国」と称される美しい景観で有名で、首都プラハをはじめ、街全体が世界遺産に登録されているチェスキー・クルムロフなど、戦火を免れた中世の赤い屋根の街並みが国中に残っており、歴史的な街並みと芸術、音楽が楽しめる、世界有数の観光国でもあります。また、ピルスナービール発祥の地でもあるチェコは、国民一人当たりビール消費量が世界一で「ボスボダ」と呼ばれるビアホールが街のあちこちにあり、ビールの種類も豊富です。

そんな、中世の歴史を感じる都市プラハで開催された FDI 世界歯科会議の様子を下記レポートさせていただきます。

① FDI 学術講演

グローバルなシンポジウムや学術プログラムは、AI 診断、ロボットによるインプラント治療、低侵襲治療、歯の保存、患者中心の医療などを主要テーマとして挙げています。4 日間で 100 講演を超え、また、面白く便利なのが、AI によるリアルタイム翻訳です。10 以上の言語に対応した AI ライブ翻訳が提供され、日本語も対象言語に含まれています。言語による「壁」も AI の力で取り払われ、「より」国際会議も身近なものとなりました。

なお、FDI の HP での同 AI ライブ翻訳のデモ動画では英語→日本語訳の紹介がされており、比較的英語が苦手な人が多い（？）日本人の需要に刺さる取り組みだなと感じました。

今回の FDI 世界歯科会議では、「AI とデジタル」が大きくピックアップされていました。AI を用いた画像診断・治療計画の自動化、臨床における最先端の「デジタルワークフロー」や「ロボットインプラント手術」など、従来の常識を覆すテクノロジーにフォーカスが当てられていました。

① -1 期待先行から一歩進んで

：歯科インプラントロボットシステムの臨床的強みと実臨床における課題



大きなドーム会場「O2アリーナ」で開催され、注目を集めたのは、香港大学及び上海交通大学で名誉教授を務め、また、香港・上海にて「ブローネマルク・オッセオインテグレーションセンター」を創設したジェームス・チョウ氏による「Beyond the Hype: Clinical Strengths and Real-World Barriers of Robotic Dental Implant Systems」（「期待先行から一歩進んで：歯科インプラントロボットシステムの臨床的強みと実臨床における課題」という講演です。

2024～2025年に発表されたメタ解析では、ロボットシステムは他の方法と比較して、埋入位置や角度で、高い精度を示しています。また、利点として、術中のリアルタイムな調整、解剖学的構造の保護などが挙げられます。また、無歯顎症例や即時荷重などの複雑な症例においても、その能力を発揮すると考えられています。

一方で、課題も残されています。高額な導入・運用コストは、インプラント埋入数の多い施設に導入が限定される要因となっています。また、現在のエビデンスは短期的なデータが中心であり、長期的なランダム化比較試験（RCT）が少ないことも課題です。

大きなコンサートもできるようなアリーナで、講演会後も具体的なシステム金額と回収に関する質問が会場からあるなど、その有用性と課題についての議論がされていました。

「ロボット」という言葉は、1920年にチェコで生まれましたが、そのチェコで最新ロボットの講演と、興味深いものがありました。

他にもAIに関する講演が今回は多かったです。ただ「AIがすごい」という話ではなく、「現在のAIで何ができるのか、何がまだできないのか、診断精度は本当に上がるのか、AIへの過信、バイアス、実際の歯科医院への導入」など「AI診断」というよりも「AI診断補助」として、どう活用するかというような講演が多くされていました。

① -2 NCDs と口腔健康の関係性について

FDI WDC は単なる世界最大級の歯科見本市・学会ではなく、「歯科界が世界の保健医療政策に対して、何を発信し、どういう方向に動かそうとしているのか」を見る場でもあります。特に今回の 2026 年大会は、WHO・国連の口腔保健政策とのつながりを意識して見ると、非常に面白い大会です。

数年前は新型コロナウイルス感染症が世界を大きく震撼させましたが、実は各種の感染症による死亡の割合より、死亡割合が高い問題の『NCDs』はご存知でしょうか？

NCDs とは、Non-Communicable Diseases(非感染性疾患)の略で、NCDs はがん・糖尿病・循環器疾患・慢性呼吸器疾患が含まれ、全世界死因の約 70%をも占めると言われております。喫煙や過度の飲酒、不健康な食事や運動不足などの原因が共通しており『生活習慣の改善』により予防可能な疾患です。



過去に記載した FDI レポートでも、FDI WDC 2018 ブエノスアイレスでは、FDI-WHO-NCD Alliance の共同セッションでの砂糖過剰摂取に対する抑制に関する講演、FDI WDC2023 シドニーでは FDI と WHO の協働での禁煙に関する講演などを紹介させていただきましたが、昨年 2025 年 12 月には国連総会で NCDs (非感染性疾患) とメンタルヘルスに関する政治宣言が採択され、その国連の NCDs 政策の中に「口腔疾患」が明記されました。

国連の同宣言では、「世界で 37 億人が口腔疾患に罹患している。そして、口腔疾患は多くの国で重大な健康・経済的負担であり、生涯にわたって人々に影響し、痛み、苦痛、外観への影響、さらには死亡をもたらす。大部分は予防可能、修正可能なリスク因子によって引き起こされ、社会・環境・人口レベルの対策が必要で、他の NCDs にも寄与し得ると認識する」との内容が明記されました。国連ハイレベル会合において、口腔保健が前文と本文の両方で明確に認められたのは今回が初めてです。

FDI プレスリリースでも、この成果は、FDI とそのメンバーおよびパートナーを含む口腔保健コミュニティによる 10 年以上にわたる継続的な提唱活動の成果で、この取り組みの導入は、世界的な非感染性疾患対策における口腔保健の新たな段階を示すものであると、大きな前進を発表していました。

今回の FDI WDC2026 でも、「脆弱な環境における口腔保健：非感染性疾患（NCDs）、プライマリ・ヘルス・ケア、人道支援へのケアの統合」というお題で、口腔疾患が主要な非感染性疾患（NCD）とどのように関連しているか、そしてなぜ統合的なケアモデルが脆弱な状況や人道支援を必要とする状況において不可欠なのかと議論を深めていました。



FDI は VISION2030 「No Health Without Oral Health」の中で、「NCDs 予防」「ユニバーサルヘルスカバレッジ」「労働場所のウェルビーイング」「健康的老化への戦略」を掲げていますが、NCDs 分野は、長年の議論や情報発信により、確かな成果を生み出しつつあります。

各国の歯科医師・歯科医師会が集まり FDI で提言をし、FDI の提言が WHO や国連の提言に繋がり、世界各国の口腔保健政策にも影響を与えるといった「ダイナミズム」を感じることができるのも FDI WDC の大きな魅力です。

また、「Health Ageing strategies：健康的老化への戦略」の分野では、FDI を GC-NAKAO Foundation for World Wide Oral Health(中尾世界口腔保健財団) がサポートして研究を進めています。

① -3 高齢社会に対する口腔健康～10 年を超えて～



FDI が GC/中尾世界口腔保健財団の支援を受けて、2015 年に立ち上げた「高齢化社会における口腔健康（OHAP）」プロジェクトは、世界的な高齢化の急速な進展に伴い、口腔保健を健康長寿のための広範なグローバル戦略へと統合することを目指しています。発足から 10 年が経過した現在、この取り組みは、高齢者の栄養不良、認知機能の低下、そして誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）などの全身疾患を防ぐために、口腔機能を維持することが極めて重要であると講演しました。

主な目標と 10 年間の進捗

- * 政策提言と普及活動： 口腔保健を国家的な医療制度やユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）へ組み込むよう働きかけ。
- * 実践的なツールの開発： 介護者や患者向けに、FDI フレイルガイド（ウェブアプリ）や口腔機能エクササイズ教育用パンフレットなどの具体的なリソースを開発。
- * 専門職間の連携（多職種連携）： 在宅や施設で暮らす高齢者を支えるため、歯科医療チーム、一般医、介護施設のスタッフによる協力ネットワークを推進。

会議では、実際に FDI フレイルガイド（ウェブアプリ）を利用した事例や、口腔機能エクササイズ教育用パンフレットの活用例も共有され、同会議後も、予定時間よりオーバーするほど、レバノン・英国・ナイジェリア・カナダ・ドイツ・オーストラリアなど各国の多くの方が質問用マイクに並び、「多職種連携」や「実際の歯科医院での導入」「政府への働きかけ」「口腔機能体操の効果の測定は客観的にできるのか」等につき質問するなど、高齢化社会における口腔健康（OHAP）への世界各国からの大きな関心度合いを感じる会でもありました。

高齢社会が世界の中でも早く進んでいる日本ではありますが、その日本からの発信・日本歯科界から世界歯科界への貢献する様々な取組も大きな注目を集めていました。

② FDI 展示会

FDI の展示会会場では、90 社以上と多くのメーカーが各種製品展示を行っていました。



GC ブースは会場内で大きな展示を行なっていました。チェコ共和国、ハンバリー、スロバキア、ポーランドで歯科材料シェア No.1 と、中欧各国に深く浸透している日本を代表する歯科材料企業の GC。

CR、セメント、ボンド、予防製品ほか、様々な製品が展示され、注目を浴びていました。また、日本であまり見かけない製品で人気があると話が合ったのは、同社『エクイア フォルテ』です。エクイアシステムは、フジIX（ガラスアイオノマーセメント）と G ガード（コーティング材）のセット利用するシステムで欧州臨床家から高い支持を得ています。GC の東欧諸国への浸透具合には、改めて、グローバル企業としての GC 強さを実感いたしました。



モリタブースでは、『シグノ Z300』が中央に展示されていました。少し変わっているのは、スピットンがなくフルフラットなデザイン。欧州では特にフランスを中心に同社ユニットはよく売れているそうですが、スピットンを使わずバキュームで吸うスタイルの使い方も多いそうです。チェコの市場では、タービン・コントラがよく売れていて、もっと拡販していきたい由。また、同社エンド系製品も売れているとのことでした。



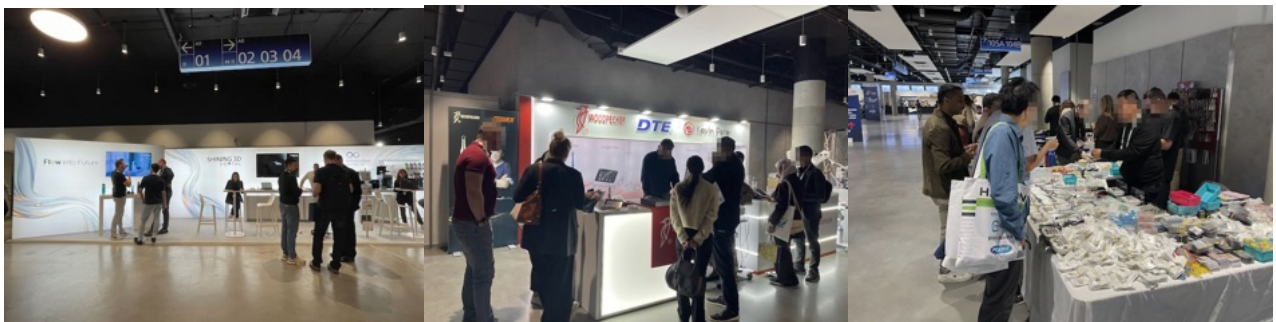
松風ブースでは、同社の CR、ボンド、セメントなどが注目を集めていました。カメラのアイスペシャルも展示をしていましたが、チェコでの同製品販売はまだないとのこと。現在はチェコでのシェアはさほど高くないそうですが、「伸び代しかない」とその状況を楽しむように情報発信をする松風の今後の海外展開も楽しみです。



プランメカ、カボ、デンプライシロナ、イボクラと世界的に著名な歯科企業も展示をすると共に、FDI に訪問した世界各国の歯科関連者や、チェコなど中欧の方々に、自社のイチオシ製品を展示して情報発信をしていました。



予防歯科を進める各社も大規模な展示を行っていました。2022 年 7 月にグラクソ・スミス・クラインからコンシューマーヘルスケア部門が独立して登場した HALEON は、今回 FDI でも入り口や階段など様々な場所で特に広告量が多く感じました。また、オシャレなクラプロックスの展示ブースには長蛇の列ができるなど、予防関連各社も各々の製品の良さをしっかりと伝えられる場所を有効活用していました。



SHINING 3D、ウッドペッカーなどの中国各社も展示をし、情報発信をしていました。また、一部中華系企業では、製品を山積みし、即売会のように現金販売している企業もありました。世界各国から、様々なメーカーが、自身の「得手」な製品を紹介する FDI 展示会場でした。

なお、歯科医療従事者、研究者、業界リーダーが集結する世界で権威のある歯科分野の国際会議 FDI に合わせて、本会期中に日本歯科商工協会も加盟する「IDM (International Dental Manufacturers:国際歯科製造社連盟)」が開催されました。IDM は世界中の歯科関連製造業者が構成する団体ですが、今回の会議では、中国製の偽物製品が多く出回っていることを共通の課題として認識し、中国以外の各国が連携して防いでいくにはどうしたら良いのかといった議論もされていました。

実際に、GC のパッケージをした偽物歯科材料なども出回っているとのことで、そのような事象に対する対策を IDM でも話合っていたそうです。消費者の立場としても、何処から仕入れを行なっているか不明な通販などから購入するよりも、特約店や代理店経由で安心できる取引先からの購入が、思わぬ偽物製品利用によるトラブルに巻き込まれなくて良いかと思われれます。安心できるメーカー製品を、安心な企業から購入した方が良いということを、今一度、多くの方が認識した方が良いと感じる IDM での会議内容でした。

③ プラハ市 歯科医院・研修施設訪問



今回の FDI 視察では、FDI WDC 会場近くの HARFA ビジネスセンターに歯科医院、及び、研修施設（アカデミー）を開設する BG DENTAL CLINIC と BG(BeloGrad) ACADEMY を見学させて頂きました。院長の Maxim Belograd 先生は、ウクライナ・キーウ出身の歯科医師、顕微鏡・審美修復・エンドのエキスパートで、ロシア-ウクライナ戦争の戦禍を逃れて4年前にチェコへ引っ越してきました。

同アカデミーは、SNS でも多くの発信を行い、英語とロシア語でハンズオンを重視した教育で、欧州はもちろん、米国、ロシア、アジア、中東、アフリカと世界 100 カ国以上と様々な国から受講生が訪れます。1 年前に規模拡大のために、現在の場所へ引越しをしてきた同アカデミーは、20 台もの歯科研修ユニットとマイクロスコープが並んでおり、同アカデミーへは世界 100 以上の国から様々な歯科医師が訪れます。



また、アカデミー講師用チェアには一般的な接眼レンズ付きのマイクロスコープに加えて、ヨシダのデジタルマイクロスコープ『ネクストビジョン』も設置されていました。

Belograd 先生は「私自身は、接眼レンズ付きマイクロスコープで慣れているけど、マイクロスコープに慣れていない子にはいいよ」と、まだ使い始めたばかりながらも、研修施設での利用に面白みを感じているようでした。マイクロ初心者でも簡単に、多くの人と同じ視野を画面で共有しながら治療をできるネクストビジョンは、歯科臨床はもちろんのこと、教育との相性もよく、海外でも活躍の場が少しずつ増えてきています。



患者さん用の入口が別にある BG DENTAL CLINIC は、お洒落な受付を抜けると、かなり広めの個室で患者さんがゆったりと寛げる空間となっています。

Belograd 先生の顧客はアメリカなど海外から治療のために来院される方もいるなど、先生自身は1日だいたい1名の患者さんを診察・治療する程度で、あとは、研修講師や、SNSでの発信等を行なっているそうです

マイクロスコープは天釣りでスッキリ収納、デンタルレントゲン装置までチェアサイドに設置され、術者・患者さん共にリラックスしながら治療に専念できる空間を用意していました。歯科医院のチェアは多くなく、1日の患者さんは、勤務医治療を含めても、1日5-10名程度とのことですが、VIPな空間となっています。



洗浄消毒に利用する部屋も、『DAC プロフェッショナル』や『W&H』がスッキリとならび、余裕な造りです。また、実は洗浄消毒と同じ部屋に機械室のコンプレッサーなども設置されていましたが、静音使用な作りになっていました。

チェコの歯科診療は、公的保険／自費と2種類の診療が受けられますが、BG DENTAL CLINIC は国内外のVIP患者さんにフォーカスをしたゆとりのある歯科医院及び歯科研修所でした。貴重な見学をさせて頂いた先生に大感謝です。

④ ジャパンナイト



ジャパンナイトは日本歯科医師会が主催、ヨシダ、GC、モリタ、松風と日本を代表する企業が協賛で、世界各国の歯科医師会代表、FDI 役員や関係者を招いて毎年 FDI 開催期に行われます。

日本歯科医師会の末瀬常務理事の開会の挨拶に始まり、高橋会長の主催者の挨拶、松風、ヨシダ、GC、モリタ社長紹介、FDI 会長の Dr. Asst. Prof. Nikolai Sharkov 氏からの来賓挨拶がありました。FDI 会長がジャパンナイトにご参加頂くことも多いですが、FDI も日本歯科会の取組に関心を寄せて頂いていることがわかります。





その後に、FDI 理事の小川先生から、乾杯の挨拶があり、外国の方々に人気なお寿司や、日本や地元の各種食べ物、ビールやワインでおもてなしを行いました。

特に乾杯後に、着物の女性により運ばれてきたお寿司は大人気で、かなりの量を持ってきたものの、あっという間に無くなってしまいました。



また、チェコの料理も豊富で、国民消費量世界 No.1 で美味しいチェコビールもコダワリの生ビールがプロの手で注がれ、日本酒も銘品が並び振る舞われました。



最後は、日本歯科医師会専務理事の伊藤先生に締め挨拶を頂き、中締めとなりましたが、欧米・アジア・中東・アフリカ・オセアニアと世界各国の歯科関連 VIP の方に、日本からの「おもてなし」と共に様々な情報提供をできる良い機会となりました。

⑤ FDI での各国都市訪問

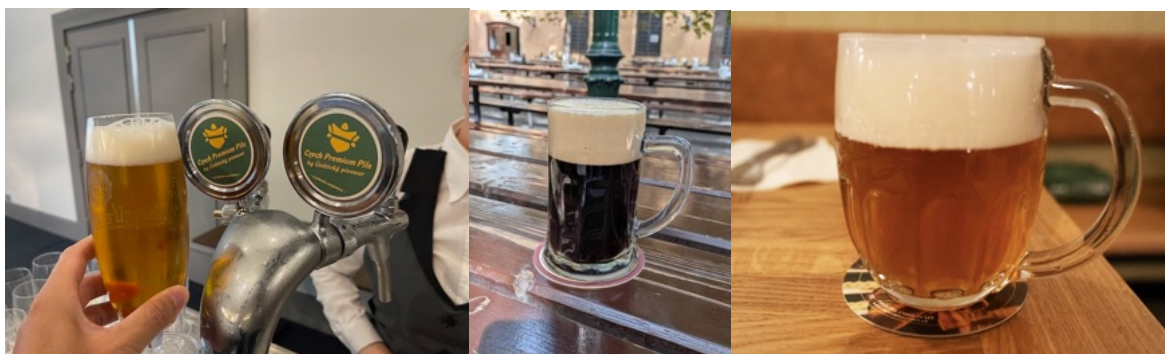


今回、チェコ共和国プラハは初訪問でしたが、「おとぎの国」と称されるのが「なるほど」と感じるような本当に街並みが美しい街でした。

中世から戦禍に見舞われることなく、10-13 世紀のロマネスク様式、12-15 世紀のゴシック様式、15-16 世紀のルネッサンス様式、17-18 世紀のバロック様式、19-20 世紀のアールヌーヴォ様式、20 世紀のキュビズム様式、そして現代建築と、数百年を隔てた建物が隣り合いながら調和し、独特の魅力を放つプラハは「建築博物館」と言われることもあるそうです。



ビールは、ピルスナービールの元祖でもある「ピルスナー・ヴィルケル」をはじめなんと銘柄が 400 種類以上もあるとのこと。カラッとした気候に合うスッキリとしたビールは、美味しくスルスルと飲めてしまいます。街に多いホスポダと呼ばれるビアホールでは多くの方がビールを楽しんでおり、ビール国民一人当たり消費量が世界一を誇るというのも頷けます。



ビールに合う肉料理が美味しく、牛肉・豚肉・鶏肉はもちろん、鴨肉やアヒル肉などもあり、また、様々な種類のチーズも豊富です。ジビエが有名なお店へも訪問し、皆でご飯を頂きましたが、とても美味しく、素敵な時間を過ごすことができました。



今回のプラハ FDI 世界大会では、講演会や展示会、歯科医院見学はもちろんのことですが、プラハ・チェコの街や歴史からも大きな刺激を得た充実した4日間でした。FDI は毎年違う都市で開催され、その国や都市毎に違う色々な事柄から様々な刺激を受けることができるのみ魅力の一つです。

FDI は、日本歯科医師会や日本歯科商工協会、ADA をはじめ世界 187 もの歯科関連団体がメンバーを構成し、歯科界を代表して WHO などへも情報提供を行い、WHO から発信される情報は各国の厚労省のような政府機関にも広く知れ渡ります。そのような大きな舞台に参加することで、歯科の大きな潮流を知ることができます。



次回の FDI リージョナル会議は 2026 年 10 月 21-23 日にケニアのモンバサで「アフリカにおける先進歯科医療」というお題で開催されます。また、次回 FDIWDC は、インドが乾季に入った 2027 年 10 月 21 日～24 日に、インドの西海岸に位置する同国最大の商業・金融の中心都市ムンバイで開催されます。

インドは、320 以上の歯科大学から人材を輩出し、歯科医師数 400,000 人以上（うち専門医は 40,000 人以上）で、製造関連 5,000 社以上の企業があり、市場規模も 20 億米ドルを超過と大きな市場です。さらに、年間成長率は 20-30%に達し、世界で最も成長が著しい歯科市場となります。

膨大な専門人材と、急速に拡大する口腔ヘルスケア産業に支えられた「世界最大級の歯科エコシステムを有するインド」での次回 FDI WDC の開催にも注目が集まります。

世界各地で開催される FDI は、その活動のダイナミズムに触れることができる他、世界各国の文化や食などに触れるチャンスでもあるので、一度足を運んでみられては如何でしょうか。

レポートも長くなりましたが、最後までご覧頂き誠にありがとうございました。

私共、歯科ディーラーにとって第一の努めは、歯科医療従事者の皆様へ『よい情報、よい製品』をいち早く正確にお届けし、『歯科医療従事者の皆様へのお役立ち』をすることだと考えております。そして、歯科医療従事者の皆様へのお役立ちを通じて、皆様の笑顔や健康に少しでも寄与できたら良いと考えております。

『人々の笑顔、健康に寄与することを目指して！』今後とも歯科医療従事者へのお役立ちを第一に、様々な情報発信に努めて参りますので、引き続きご愛顧のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以 上

(取材・編集)株式会社シラネ
代表取締役 榊原利一郎